

平成29年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立城南中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成29年4月18日(火)

■ 調査の対象学年

中学校3年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、数学A〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、数学B〕
<ul style="list-style-type: none">身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は中学3年生（小学6年生）と限られた学年が対象であり、教科は国語と数学（算数）に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

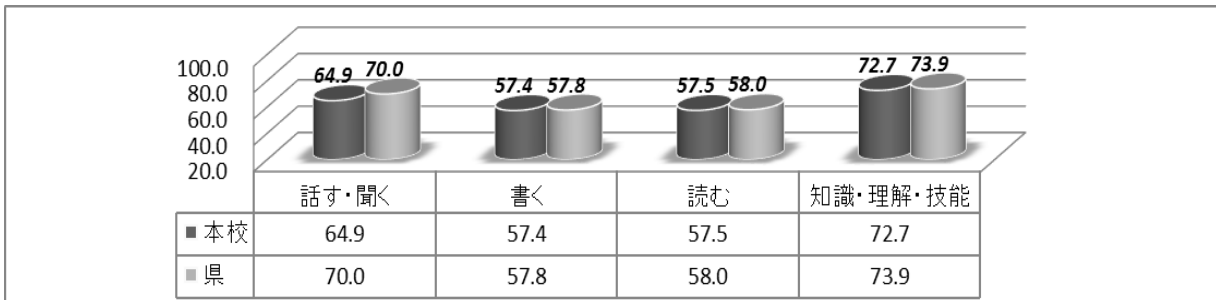
◆ 1・2年生の学習状況調査について

1・2年生については、3年生の全国学力学習状況調査に併せて佐賀県小・中学校学習状況調査を実施しましたので、その結果を掲載しています。

■調査結果及び考察

国語（1年）

(1) 結果



- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の主要領域において県平均を下回っている。
- 文章を正確に読み取ることを苦手とし、内容ごとのまとまりを意識して文章を読むことができていない。
- 知識、理解、技能についてはおおむね達成を超えており、望ましい学力は身につけている。十分達成のために更に向上をめざす必要がある。

(2) 考察、課題と学校での取り組み

話すこと・聞くこと （目的や場面に応じて、筋道を立てて話したり聞き取ったりする力）	
考察	・話し方に見られる工夫を理解できておらず、内容の理解にも影響している。
課題	・話の組み立てを意識して話すこと、相手の意図を意識して聞くこと。
対策	・授業で得た技術(接続表現や話の組み立て方)を使って自分で文章を書く。 ・短い時間(内容)のスピーチや話し合い活動または互いに質問や説明を行うなど、主体的に話したり聞いたりする経験を積み重ねる。
書くこと （相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章に書く力）	
考察	・活用問題など条件に合わせて書くことには、やや苦手意識をもっているようであるが、おおむね達成できている。
課題	・条件に合わせて文章を書くこと。 ・文章を書くという経験を数多く積むこと。
対策	・問題に対して、正しく理解し、目的にあった内容をきちんと表現できるようにする機会を数多く設ける。
読むこと （目的に応じて様々な文章を読み取ったり、読書に親しんだりする力）	
考察	・読むことには大きな抵抗もなく取り組めており、おおむね達成している。活用については話の主題について考えることには十分な力がついていない。
課題	・話の展開に注意して読み、内容を整理し話の主題について考えること。
対策	・形式段落、意味段落ごとの内容整理できるようにしていく。
伝統的な言語文化と特質に関する事項 （音声、語句・語彙、文法、文字を正しく整えて書く力）	
考察	・漢字の書きにおいては、回答率が低く、知識が定着していない。
課題	・文脈の中で適切に言葉をつかう語彙力と漢字の知識を育成する必要がある。
対策	・継続的な漢字学習と漢字をきちんと使った文章を書くようにしていく。

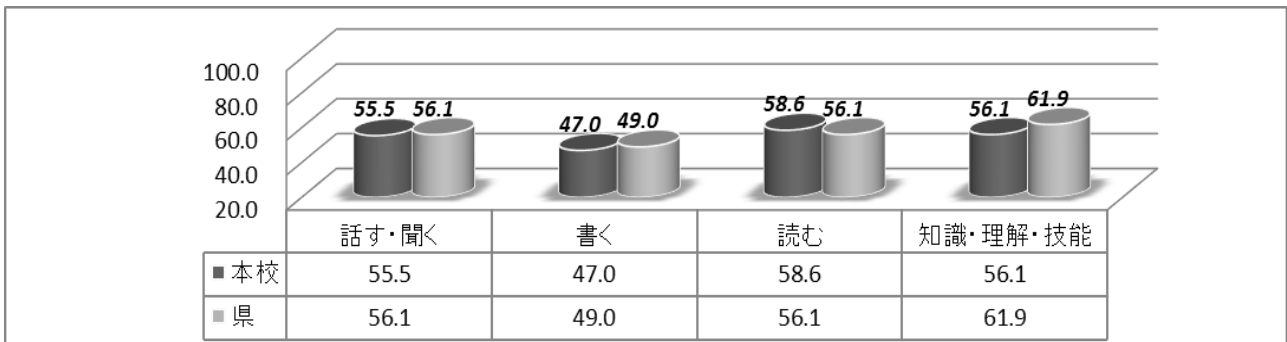
ご家庭へのお願い

- ① 文章を読むことで要点や話者の意図をとらえられるようになり、子どもたちにとって大切な読解力につながります。新聞やニュースの内容、学校での出来事などを話題に、できるだけご家庭で会話する機会をつくっていただきたいと思います。
- ② 日記を書くことや時間を決めて短時間の読書をすることによって、文章を書く力や知識、国語に関する理解力が高まると思われま。

■調査結果及び考察

国語（2年）

(1) 結果



- 「話すこと・聞くこと」「書く」「知識・理解・技能」の領域において県平均を下回っている。
- 「読むこと」については、県平均を上回っている。
- 「知識・理解・技能」の領域では、おおむね達成を超えているが、十分達成には10P以上の開きがある。

(2) 考察、課題と学校での取り組み

話すこと・聞くこと （目的や場面に応じて、筋道を立てて話したり聞き取ったりする力）	
考察	・基本的な内容は全般的に良くできているが、活用力が弱い。
課題	・話し合いの話題を捉えながら、自分の考えをまとめ、資料や自分の経験を根拠にして話すこと。
対策	・結論（意見）に対して論拠を明らかにするだけでなく、理由付けをきちんと行い、相手よりの的確に伝わるように心がけさせる。
書くこと （相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章に書く力）	
考察	・書くことに対して苦手意識をもつ生徒が多いようであり、おおむね達成の状況である。
課題	・目的に応じた内容を的確に書くことができるように、場面に応じた文章表現ができるようにする。
対策	・課題に対して、どのような材料を集め、主体的に考察する場を作る。話し合いの場を設定し、意見の交流を通して改善させていく。
読むこと （目的に応じて様々な文章を読み取ったり、読書に親しんだりする力）	
考察	・読むことには抵抗なく取り組むことができる生徒が多く、達成率も十分達成に近づいている。
課題	・読み取りやすい文章から取り組むようにするなど、読むことに抵抗がある生徒への手立てを考える。
対策	・朝の読書活動を継続して行うこと、読むことの基礎となる、言語事項の指導の場を増やしていく。
伝統的な言語文化と特質に関する事項 （音声、語句・語彙、文法、文字を正しく整えて書く力）	
考察	・語句に関する知識について、正答率が低くなっている。
課題	・漢字学習をはじめ、語句に関する知識、理解をすすめていく。
対策	・関心を持ちやすい題材を用意し、小テストをくり返すなどの指導を工夫する。家庭での反復学習のあり方などを考えさせ、生徒自身に応じた的確な学習法を身につけさせる。

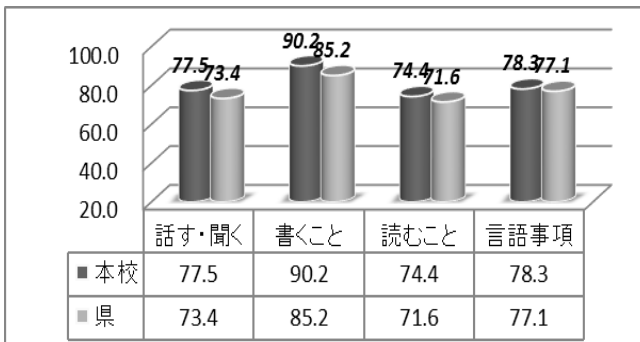
ご家庭へのお願い

- ① 新聞やニュースに触れる機会をつくり、子どもとの会話から、考えていることを聞く場面を増やしていただきたいと思います。新聞やニュースでの言葉を引用して会話できたときや、深く考えている思いが言葉になったときなどに、その確かな成長を承認していただけたらと思います。
- ② 家庭での学習の習慣化のため、「時間・場所・もの」の確保にご協力ください。

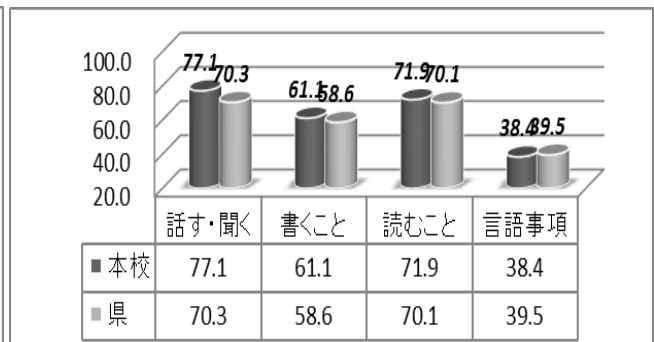
■調査結果及び考察

国語（3年）

(1) 結果 国語A（知識）



結果 国語B（活用）



○ほぼすべての項目において、全国・県を上回っている。「話す・聞く」の領域では、特に高い結果となっている。

○昨年度の課題であった「話す・聞く」が改善傾向にある。

○活用面など記述式の正答率が上がってきている。

(2) 考察、課題と学校での取り組み

話すこと・聞くこと （目的や場面に応じて、筋道を立てて話したり聞き取ったりする力）	
考察	・国語に限らず、授業や学校生活の中で「話し合い」「学び合い」を習慣的に行っている効果が出ている。
課題	・相手や聞き手を想定して適切な対応や場に応じた表現を考えることが苦手である。 ・話の要点をつかむ問題に課題が残る。
対策	・情報を正しく受け止め、適切に使い分けるために、情報活用能力を高めることを目指した学習を行う。
書くこと （相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章に書く力）	
考察	・全体的に正答率が高く、無回答率が低い。伝えたい事柄について根拠を明確にして書くようとする態度がみられた。
課題	・条件に沿った説得力のある文章表現ができるところまでは至っていない。 ・接続語や文末表現に不十分な点がみられた。
対策	・授業の中で短文を多く書く機会を設け、正しく書く力をつける。 ・国語以外の場面で、相手に伝えられるような文章を工夫して書くようにする。
読むこと （目的に応じて様々な文章を読み取ったり、読書に親しんだりする力）	
考察	・朝読書に限らず、本をよく読む生徒が多く、読むことに対する抵抗が少ない。 ・授業で新聞のコラムを読んでいるため、徐々に説明的文章にも慣れてきている。
課題	・説明的文章では、筆者の主張やその根拠を明確にできない生徒も多い。 ・文章構成を考えながら読み取る習慣をつける必要がある。
対策	・朝自習の時間を利用し、小説だけでなく多様な文章に触れる機会、苦手な文章に積極的に取り組む意欲を育てる。
言語事項 （音声、語句・語彙、文法、文字を正しく整えて書く力）	
考察	・課題として漢字を毎日書いているので、正しく漢字を読んだり書いたりする力は定着している。しかし、語句を正しく使い分けるところまでは至っていない。
課題	・辞書を活用する回数が少ないため、その活用の知識が不十分である。 ・語彙を場に応じて使い分けることができていない。 ・文字を丁寧に書く習慣がついていない生徒も多い。
対策	・授業の中で辞書を活用する。 ・ことばの力を生活の中に生かせるよう、様々な場面で言葉を考えて使うようにする。

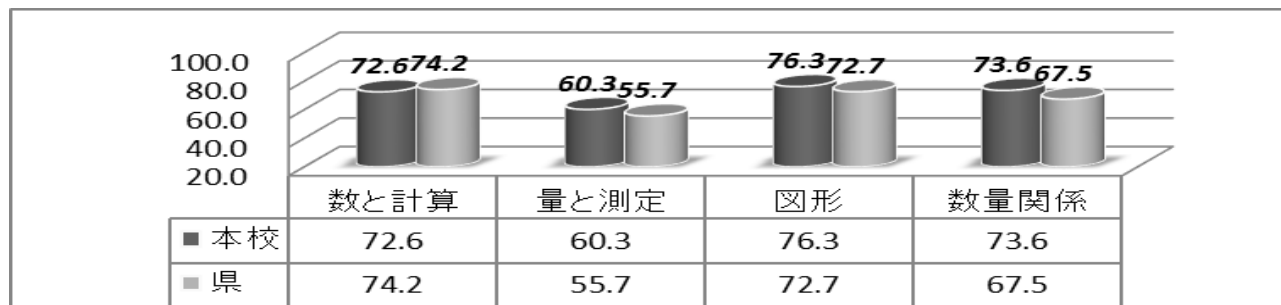
ご家庭へのお願い

- ①毎時間、新聞のコラムを読ませていますので、その話題を家庭での会話の中で取り上げてほしいと思います。
- ②正しい敬語や言葉遣い、故事成語やことわざを使う機会を増やしてほしいと思います。
- ③正しい姿勢で整った字を書く習慣をつけてほしいと思います。

■調査結果及び考察

数学（1年）

(1) 結果



- ・「量と測定、図形、数量関係」の領域では、県平均正答率を上回っている。「数と計算」の領域では、県の正答率よりも若干下回っている。
- ・全ての設問において無回答率が低いため、意欲的に設問に取り組んでいると言える。
- ・「図形、数量関係」の領域では、十分達成に近い結果であり、数学的な学力が身につけているといえる。

(2) 考察、課題と学校での取り組み

数と計算 （小数・整数・分数の混じった計算、分数のかけ算とわり算、文字と式など）	
考察	・基本的な計算問題は正答率が高い。 ・分数や小数の計算に対する苦手意識はすくない。
課題	・計算の意味を理解し、計算する力を身に付けること。
対策	・定期的な小テストを実施する。
量と測定 （図形の面積、速さ、量と単位など）	
考察	・文章を読み取り、平均点の意味を考えて解く問題を苦手としている。
課題	・平均の求め方の意味を理解すること。
対策	・平均の意味を問う文章問題を説明する授業を取り入れる。
図形 （点・線対称の図形など）	
考察	・拡大図について、多くの生徒がよく理解できている。
課題	・図形の中の関係を式に表し、その意味を理解すること。
対策	・数学的活動を授業の中に取り入れる。
数量関係 （比、比例と反比例、並べ方と組み合わせ方など）	
考察	・グラフにおける資料の分布の様子を読み取る問題について、多くの生徒がよく理解できている。
課題	・割合の大小を判断し、示された事柄が正しくない理由を説明する問題を苦手としている。
対策	・授業の中で、生徒同士がお互いに説明する時間を取り入れる。

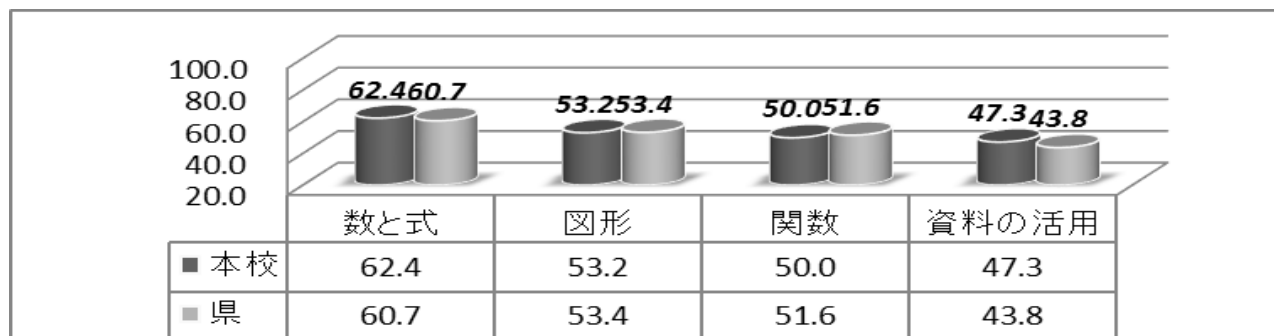
ご家庭へのお願い

- ・授業で取り扱った内容を、再度、家庭で取り組みましょう。
- ・日常生活の場面で、数学的な課題を見つけ、楽しみをもって一緒に考えてみましょう。
（様々な建造物や物体から形の名称・面積・体積、時刻表から電車の平均の速さなど）
- ・一緒に買い物に行って、商品の金額を想定させましょう。

■調査結果及び考察

数学（2年）

(1) 結果



- ・「数と式」、「資料の活用」の領域では、県平均正答率を上回っている。「図形」、「関数」の領域では、県の正答率よりも少し下回っている。
- ・全ての設問において無回答率が低いため、意欲的に設問に取り組んでいると言える。
- ・「数と式」の領域は、十分達成に近い値となっているが、他の領域では、おおむね達成を少し上回っている状況である。

(2) 考察、課題と学校での取り組み

数と式 <small>（小数・整数・分数の混じった計算、分数のかけ算とわり算、文字と式など）</small>	
考察	・基本的な計算問題は正答率が高い。 ・文字を用いた不等式から、数量の大小関係を読み取り、説明する問題を多くの生徒が理解できている。
課題	・負の数までの範囲で、数の大小を判断する問題を苦手としている。
対策	・定期的な小テスト、すくすくテストを実施する。
図形 <small>（平面図形、空間図形、おうぎ形の弧の長さや面積など）</small>	
考察	・空間におけるねじれの位置の関係を見つける問題を多くの生徒が理解している。
課題	・図形の中の長さや体積を求める基本的な問題を苦手とする生徒が多い。
対策	・ワークやすくすくテストにおいて繰り返し学習する。
関数 <small>（比例と反比例など）</small>	
考察	・反比例の関係を表すグラフの特徴を理解できている生徒が多い。
課題	・比例のグラフ上にある点が方程式を満たすという問題を苦手としている。
対策	・グラフの意味を理解し、生徒が自分で説明する時間を取り入れた授業を行う。
資料の活用 <small>（度数分布表、ヒストグラムなど）</small>	
考察	・ヒストグラムから度数を読み取る問題は多くの生徒が理解できている。
課題	・有効数字を使って近似値を表す問題を苦手としている。
対策	・日常生活の具体的な場面を表やヒストグラムを用いて指導する。

ご家庭へのお願い

- ・授業で取り扱った内容を、再度、家庭で取り組みましょう。
- ・日常生活の場面で、数学的な課題を見つけ、楽しみをもって一緒に考えてみましょう。
（様々な建造物や物体から形の名称・面積・体積、時刻表から電車の平均の速さなど）
- ・一緒に買い物に行って、商品の金額を想定させましょう。

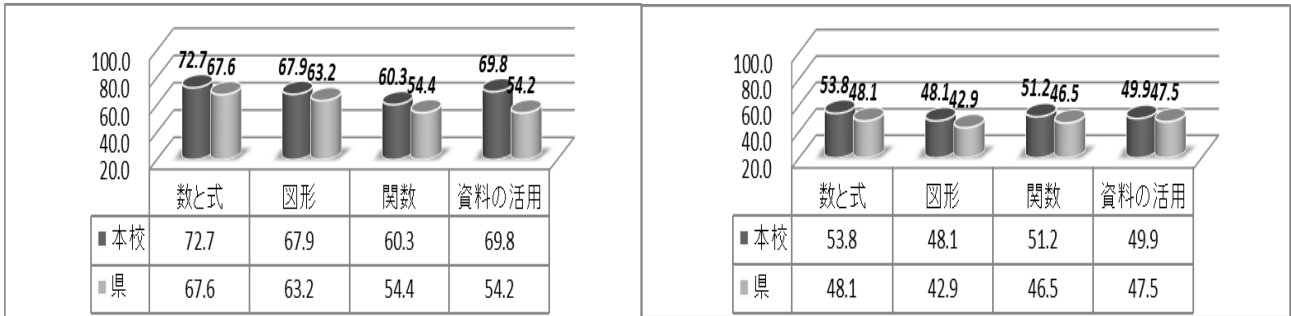
■調査結果及び考察

数学（3年）

(1) 結果

数学 A

数学 B



- ・全ての領域で県の平均を上回っている。活用についても高い数値となっている。
- ・全ての設問において無回答率が低いため、意欲的に設問に取り組んでいると言える。
- ・「数と式」の領域では、十分達成に届いている。

(2) 考察、課題と学校での取り組み

数と式 (小数・整数・分数の混じった計算、分数のかけ算とわり算、文字と式など)	
考察	・基本的な計算問題は正答率が高い。
課題	・数量の関係を文字式で表す問題を苦手としている。
対策	・定期的な小テスト、すくすくテストを実施する。
図形 (平面図形、空間図形、おうぎ形の弧の長さや面積など)	
考察	・平行移動や回転移動の意味について理解できている生徒が多い。
課題	・図形の中の長さを求める問題を苦手としている。
対策	・すくすくテストやワークを活用し、繰り返し学習を行う。
関数 (比例と反比例、一次関数など)	
考察	・与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができている。
課題	・関数の意味を答える問題を苦手としている生徒が多い。
対策	・日常生活の具体的な場面を用いて指導工夫する。
資料の活用 (度数分布表、ヒストグラム、確率など)	
考察	・資料から必要な情報を適切に読み取ったり、簡単な場合の確率を求めたりする問題は多くの生徒が理解できている。
課題	・資料の傾向を数学的な表現を用いて説明する問題を苦手としている。
対策	・数学的な表現を用いて説明する時間を授業の中に取り入れる。

ご家庭へのお願い

- ・授業で取り扱った内容を、再度、家庭で取り組みましょう。
- ・日常生活の場面で、数学的な課題を見つけ、楽しみをもって一緒に考えてみましょう。
(様々な建造物や物体から形の名称・面積・体積、時刻表から電車の平均の速さなど)
- ・一緒に買い物に行って、商品の金額を想定させましょう。
(合計、割引、個数と金額、消費税8%と10%)

生活習慣や学習習慣に関する調査

■結果

① 生活習慣について	1年生		2年生		3年生	
	本校(%)	県(%)	本校(%)	県(%)	本校(%)	県(%)
朝食を毎日食べている(「どちらかといえば、してる」を含む)	92.9	94.6	92.0	93.0	90.8	91.5
普段、11時には寝ている(毎日、同じ時間に寝ている)	70.0	75.9	43.7	49.8	47.4	79.1
毎日同じ時刻に起きている(「どちらかといえば、してる」を含む)					95.4	94.1
平日2時間以上テレビを見る	52.1	55.0	66.8	53.1	40.5	50.9
平日2時間以上ゲームをする	27.2	25.7	53.3	28.4	28.7	32.2
平日2時間以上通話やメール、インターネットをする	14.2	16.5	31.1	22.8	26.1	27.1
平日読書を30分以上している	41.4	37.4	32.4	36.0	29.5	33.0
学校図書館や地域の図書館を全く利用しない	34.5	30.2	49.0	36.2	51.0	46.1
新聞を読んでいる					32.7	34.5
地域の行事に参加している	52.2	73.3	37.1	58.8	23.5	47.9
新聞やテレビ、インターネットでニュースを見るか	79.3	77.2	78.8	78.7	83.7	85.7

■考察

≪1年生≫

【実態】

- ・「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムは概ねできていると言える。
- ・地域行事の参加については、半数は参加しているが、県平均と比べると20%以上低い。
- ・ゲームについては、長時間している(4時間以上)生徒が3%ほど多い。
- ・読書については、30分以上読書をしている生徒が県平均よりも若干高いが、全くしないという生徒もいる。
- ・多くの生徒がテレビやインターネットでニュースを見ている。

【対応】

- ・地域行事への積極的な参加・協力を促すよう、呼びかけを行っていく。地域のボランティア活動にも積極的に参加している生徒もでてきた。
- ・テレビやゲーム、就寝時間についての見直しを行い、ルールについて学校や家庭で話し合う時間を持つ。
- ・朝読書や読み語りの時間の充実等を行い、本に親しむ時間が家庭でもとれるように、読書習慣をさらに身につけさせる。

≪2年生≫

【実態】

- ・11時までに就寝している生徒が、1学年よりも減っている。
- ・2時間以上、通話、メール、インターネットをしている生徒が多くなっている。しかし、ニュースを見ている生徒は多い。
- ・2時間以上ゲームをしている生徒が去年より増え、県平均、他学年と比較しても高い。
- ・図書館を利用する生徒が減少傾向にある。

【対応】

- ・スマートフォン、携帯の使い方、利用時間、情報モラルなど利用方法やマナー等について十分な指導を行い、就寝時間等も含め望ましい生活習慣の確立につなげる。
- ・読書を好きな生徒が多い。引き続き朝読書を徹底し、読書習慣の向上を図っていく。

≪3年生≫

【実態】

- ・平日に2時間以上通話やメール、インターネットをする生徒が30%近くおり、夜更かしの原因の一つと考えられる。
- ・1日当たりテレビを2時間以上みたりする生徒が40%いるが、学年別では減少している。
- ・地域の行事に参加する生徒の割合が県平均の約半分と、大変低い数字になっている。

【対応】

- ・家庭と連携しながら家族のルールを作るなど、情報モラルについて指導をしていく。
- ・地域でのボランティア活動について情報を発信し、生徒の関心を高めていく。

家庭学習に関する調査

■結果

② 家庭学習の様子	1年生		2年生		3年生	
	本校(%)	県(%)	本校(%)	県(%)	本校(%)	県(%)
	調査項目					
平日2時間以上勉強している(塾・家庭教師を含む)	24.3	20.4	30.4	33.6	32.0	28.7
学習塾(家庭教師)で勉強している	47.3	35.2	45.8	40.4	50.9	49.7
自分で計画を立てて勉強している(「どちらかといえば、してる」を含む)	70.7	67.7	48.3	55.7	53.6	53.0
家で、学校の宿題をしている(「どちらかといえば、してる」を含む)	97.8	97.5	92.7	93.8	98.1	92.8
家で授業の予習をしている	62.9	52.6	47.7	38.6	49.7	30.8
家で授業の復習をしている	64.3	63.3	53.6	60.9	72.5	57.5

■考察

《1年生》

【実態】

- ・本校は県平均に比べ、予習、復習などの家庭学習に取り組んでいる生徒は若干多い。計画的に学習している状況もうかがえる。
- ・勉強時間がやや増加している傾向があるが、2時間以上の学習時間の確保を求めていきたい。予習、復習の習慣が身についている。内容を深めて、継続できるようにしていく。

【対応】

- ・学習の仕方が分からない生徒もいると思われるため、自主学習を進める方法の指導を行う。
- ・将来の進学や就職について考えさせる機会を設定し、学習に対する意識を高める。
- ・自己肯定感をもって自己実現を果たしていけるよう支援する。

《2年生》

【実態】

- ・2時間以上の勉強時間をとれている生徒が、県平均より低いが増加している。今後は、更に学習への取り組み方を工夫させていく。
- ・予習復習等与えられた課題はこなしている生徒が半数ほどである。将来への展望を考えた学習ができるよう、キャリア教育をすすめていく。

【対応】

- ・生徒が自分に必要な学習について計画、実行する家庭学習の充実や工夫に向けて、家庭と学校の連携を図っていく。

《3年生》

【実態】

- ・通塾率が50%と高いため、家庭で平日2時間以上勉強している生徒は30%程度にとどまっている。
- ・家庭学習の習慣がきちんと身につく、計画的に予習、復習ができている生徒の割合が高い。

【対応】

- ・学年+1時間は学習時間を確保するよう意識づけを行う。
- ・生徒一人ひとりが、より自主的、効率的に学習に取り組めるような指導方法、内容の改善を図る。
- ・将来の進路について、家庭と学校で情報を、夢や目標、自分を大切にすることを育てていく。

心の内面の様子

■結果

③ 心の内面の様子	1年生		2年生		3年生	
	本校(%)	県(%)	本校(%)	県(%)	本校(%)	県(%)
学校に行くのは楽しい(「どちらかといえば、そう思う」を含む)	89.3	93.5	84.1	87.6	84.3	83.5
みんなで協力してやり遂げ、うれしかったことはある					81.7	85.5
先生はあなたの良いところを認めてくれている					81.1	79.5
社会で起こっていることに興味がある					50.3	62.2
学校の規則を守っている					97.4	95.1
いじめはいけないことだと思う					94.1	94.9
人の役に立つ人間になりたい(「どちらかといえば、そう思う」を含む)	92.9	96.7	94.7	95.2	96.7	93.7
将来の夢や目標を持っている(「どちらかといえば、あてはまる」を含む)	86.5	85.6	70.2	72.1	65.4	72.0

■考察

《1年生》

【実態】

- ・ 県平均よりは少ないが、学校に行くのは楽しいと思っている生徒は多い。
- ・ 「人の役に立つ人間になりたい」、「将来の夢や目標を持っている」の数値が高く、将来に対する展望を強くもっている生徒が多い。

【対応】

- ・ 中学校3年間の学習に見通しを持たせ、将来の夢や目標を意識させて、生徒が日々の授業を充実したものにできるようにしていく。

《2年生》

【実態】

- ・ 学校に行くのは楽しいと思っている生徒の割合は高い数値であるが、1年時から下がっている。
- ・ 「人の役に立ちたい」とほとんどの生徒が思っている。また、夢や目標を持っている生徒も70%いる。

【対応】

- ・ 中学校生活を充実させていくために、進路指導やキャリア教育を充実させ、生徒が将来の夢や具体的な目標を持つことができるようにする。

《3年生》

【実態】

- ・ 「学校に行くのは楽しいと思う」と答えた生徒の割合は多い。しかし、10名以上の生徒は、進路等の悩みやプレッシャーが増え、学校が楽しいと感じられない状態にあると思われる。
- ・ 「みんなで協力してやり遂げ、うれしかったことはある」や、「先生はあなたの良いところを認めてくれる」と答えた割合は高く、自己肯定感の高い生徒が多い。
- ・ 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心のない生徒がやや多い。
- ・ ほぼ全ての生徒が学校のルールやマナーを守っている。
- ・ 人の役に立ちたい、という気持ちは大多数の生徒がもっているが、具体的な将来の夢や目標をもっているという生徒の割合はあまり多くない。

【対応】

- ・ 学校行事などで生徒のよさを認め合うことやそれを発信し、学校や生徒に対してより多くの承認感を持たせる。
- ・ 学校行事等で生徒が活躍している様子を地域や保護者に発信し、連携を深めていく。
- ・ 進路学習、キャリア教育を充実させ、将来の夢や目標の実現に向け、何事にも主体的に取り組む態度を育む。
- ・ 生徒の進路実現に向けて、学校と家庭で情報交換など連携を深めていく。
- ・ NIE教育の拡充を図る。